

集落支援だより

1月号 (No.6)



賀 正

問い合わせ

岩国市中山間地域振興室

集落支援員 金丸 恵子

明けまして

おめでとうございます



「新年に寄せて…」

昨年は、9月2日にコロナで延期になっていた「元氣創出！どこでもトークin柱島」が14年ぶり、柱島で開催されました。

村岡県知事・福田市長が来島され、港には大勢の人が集まり、大漁旗がはためいていた情景は心に強く残っています。岩国に住んで40年になりますが、柱島群島を訪れたのは、昨年の4月が初めてでした。集落支援員の任に就かなければ、一度も足を運ぶ機会がなかったかもしれません。

手探りの状態で仕事を始め、3島でおこなわれた清掃活動、米川小学校の柱島自然教室、鳥獣被害予防講習会など開催し、今年も自然豊かな島をPRできないか、特産品を増やせないか、いろいろな思いが巡りますが、皆様の思いに近づく活動の心がけていきたいと考えています。

前任の支援員が調査に入ってから5年がたちました。秋頃から再度、各世帯を訪問して様々なお話を伺っている途中ですが、端島、黒島を回ってみて、世帯数が半分になっているのには大変驚きました。柱島はこれからですが、なるべく早く伺いたいと思います。

柱島群島の皆様、今年もよろしく願いいたします。

令和6年元旦

集落支援員 金丸恵子

柱島群島 面白歴史探訪

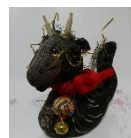


柱島群島の面白い歴史や裏話はないかと、元徴古館長の宮田さんにお話を伺いました。

一番気になるのは、いつ頃から人が住み着いたかです。端島の北東端の岩場の沖には**海底遺跡**があり、付近の海底からは**古墳時代の土器**が揚がっています。これをもって直接人の定住には結び付けられませんが、小舟を操り瀬戸内海の島々を自由に行き来していたのでしょう。それにしても、遺跡の詳しい調査が待たれます。

《鎌倉初期…》

○柱島が史料に初めて出てくるのは1184年、賀茂別雷神社（上賀茂神社）文書の中、**源頼朝**の下文の中に出てきますが、これは上賀茂神社領内での狼藉を禁じたものです。すでにこの頃には、柱島の賀茂神社が京都の上賀茂神社の社領となっていたことを表します。
また、神様は「柱」と数えるため、多くの神が祭られている島は「柱島」と呼ばれるようになったとも伝えられています。



《中世代…》

○この間の歴史は島ゆえの特性のため、不明な点も見られますが、「**忽那義範**」や「**柱五郎左衛門尉俊宗**」の名前には聞き覚えがある方もおられるかもしれません。
村上水軍同様、瀬戸内海の水先案内人兼、ボディガードとして活躍していました。

《江戸時代…》

○享保11年（1726年）の調べでは、柱島には寺3軒を含めて89軒あり、その内の42軒が**舸子**（カコ）一水夫一屋敷に指定され、藩の軍船の**舸子**を務めました。
○特産品は**苦**（トマ）であり、苦かやは柱島群島に広く生えており、上苦を「**まかや**」と呼び、これで六尺五寸×三尺二寸の波除けを作り、御船手組一藩の水軍へ1225枚を納める事とされていました。
○今一つの特産品は**塩**です。中世よりの「**揚浜式**」で行われ、浜は63枚あり、塩四十石八斗を藩へ納めていました。
○黒島は江戸時代初期には、無人で子牛を放牧し育て三歳になると島外で売ったり、家での耕作や運搬用にしていたようです。
○開作の堤防を築く石は黒島を中心とした柱島群島や国境の甲島などの島石を中心に浦ヶ浜の石切場などで調達されていました。

※代々庄屋を務めていた中富家の歴史や民俗学者 宮本常一と島との関り、黒島、端島で行なわれていた土地均分、漁具の共同所有など興味深いお話は沢山あります。次の機会にはもっと深掘した内容を紹介できたらと思います。

※参考文献：玖珂郡志・享保増補 村記・柱島群島ライブラリー（藤田慎一執筆・編集）